

数詞

1. 数詞とは？

数詞とは、数を表す基数詞と、順序を表す序数詞のことです。

テストではもちろんのこと、すべての状況において出てきます。日本語においても、テレビ・ニュース・買い物・学校 etc、数字が出てこない日はないくらいです。絶対に覚えて下さい。

2. 基数詞の用法

基数詞とは、「1, 2, 3…」や「1個、2個、3個…」などの数を表すときに使う語です。

1 数字

[基礎となる数字]

1～1000まで覚えると、そのあとは応用で1億くらいまではすんなり頭に入ります。これはもう、暗記以外にありません。

まずは、1～20と100までの10区切りの数、そして1000を紹介します。

1	…	one
2	…	two
3	…	three
4	…	four
5	…	five
6	…	six
7	…	seven
8	…	eight
9	…	nine
10	…	ten
11	…	eleven
12	…	twelve
13	…	thirteen
14	…	fourteen
15	…	fifteen

1 6 ... sixteen
1 7 ... seventeen
1 8 ... eighteen
1 9 ... nineteen
2 0 ... twenty
3 0 ... thirty
4 0 ... forty
5 0 ... fifty
6 0 ... sixty
7 0 ... seventy
8 0 ... eighty
9 0 ... ninety
1 0 0 ... hundred
1 0 0 0 ... thousand

これが基本となりますので、必ず暗記して下さい。また、イギリス英語とアメリカ英語で多少の違いがありますが、もっと大きな単位もあります。

1 0 0 0 0 0 0 ... million
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ... billion
1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ... trillion

日常生活でこれだけ大きい単位を使うことはあまりありません。

[二桁の数字]

上で紹介した以外の二桁の数字の表し方です。十の単位の数と一の単位の数をハイフン（・）でつないで表します。例えば「21」だと次のように表します。

$$21 = 20 + 1$$

$$20 = \text{twenty}$$

$$1 = \text{one}$$

$$21 = \text{twenty-one}$$

このハイフンを忘れてしまう方が非常に多いので注意して下さい。では、他の数字の例です。要領さえつかめばすぐにできると思います。

$$22 \quad \cdots \quad \text{twenty-two}$$

$$34 \quad \cdots \quad \text{thirty-four}$$

$$88 \quad \cdots \quad \text{eighty-eight}$$

[三桁の数字]

100以外の三桁の数字の表し方です。100がいくつあるのかを表します。例えば「200」だと次のように表します。

$$200 = 100 \text{ が } 2 \text{ つ} = \text{two hundred}$$

これでOKです。この要領で、300や400も表せます。

$$300 = 100 \text{ が } 3 \text{ つ} = \text{three hundred}$$

$$400 = 100 \text{ が } 4 \text{ つ} = \text{four hundred}$$

そしてこの三桁の表し方と二桁の表し方をくっつけることで、複雑な三桁の数字を表すことができます。

$$143 = 100 + 40 + 3$$

$$143 = \text{one hundred (and) forty-three}$$

この hundred 直後の and は省略可能です。基礎となる数字を覚えていれば表せますので、表し方と共に基礎の数字を覚えて下さい。では、他の数字を紹介します。

$$428 \quad \cdots \quad \text{four hundred (and) twenty-eight}$$

$$712 \quad \cdots \quad \text{seven hundred (and) twelve}$$

$$901 \quad \cdots \quad \text{nine hundred (and) one}$$

[四桁の数字]

1000以外の四桁の数字の表し方です。1000がいくつあるのかを表します。例えば「2000」だと次のように表します。

00 = 1000が2つ two thousand

これでOKです。この要領で、3000や4000も表せます。

3000 = 1000が3つ = three thousand

4000 = 1000が4つ = four thousand

そしてこの四桁の表し方と三桁・二桁の表し方をくっつけることで、複雑な数字を表すことができます。

9265 = 9000 + 200 + 60 + 5

9265 = nine thousand two hundred (and) sixty-five

この hundred 直後の and は省略可能です。基礎となる数字を覚えていれば表せますので、表し方と共に基礎の数字を覚えて下さい。では、他の数字を紹介します。

1001 ... one thousand (and) one

2500 ... two thousand five hundred

5013 ... five thousand (and) thirteen

[五桁以上の数字]

10000以上の数字の表し方です。1000がいくつあるのかを表します。例えば「10000」だと次のように表します。

10000 = 1000が10こ = ten thousand

これでOKです。100000だと次になります。

100000 = 1000が100こ = one hundred thousand

そして上記で解説している数字の表し方を組み合わせることで、複雑な数字を表すことができます。

462292 = 1000が462こ + 292

462292 = four hundred sixty-two thousand two hundred ninety-two

このように、二桁～四桁の数字の表し方を組み合わせることで大きな数字を表すことができます。

ちなみに、1000000（百万）になると、million を使って表します。下の5で紹介しています。

2 年号

年号は、基本的に最初と最後の二桁ずつに区切って読みます。

例：

1995年 = 19 + 95 = nineteen ninety-five

2000年 = 2000 で OK = two thousand

2009年 = 2000 + 9 = two thousand nine

3 日付

what のページでも少し触れていますが、日付は基数詞・序数詞のどちらでも OK です。

例：

3月6日 = March six (sixth)

8月12日 = August twelve (twelfth)

11月28日 = November twenty-eight (twenty-eighth)

4 電話番号

電話番号は、1つずつ数字を読みます。ただし、0 (zero) は ou (アルファベットの O と同じ発音) と読むときがあります。

例： 1241-0092

one two four one ou ou nine two

5 大きい数字

大きい数字は、100ずつ区切って、それぞれの単位に合わせて読みます。

678,553,912 のように、大きな数字をコンマで区切っているのを見たことはありませんか。実は、このコンマが大きなカギを握っています。このコンマは英語の単位にピッタリ合っているのです。

例： 678,553,912
6 7 8 , 5 5 3 , 9 1 2
million thousand 一

上記のように区分します。これは、

million = 678こ
thousand = 553こ
そして912

があることを意味します。よって次の表記になります。

six hundred (and) seventy-eight million, five hundred (and)
fifty-three thousand, nine hundred (and) twelve

それにしても長いです。

6 小数

小数は、小数点までは普通に、小数点は **point**、小数点以下は1つずつ読みます。

例： 1 4 2 2 . 9 3 8

one thousand four hundred (and) twenty-two point nine three eight

7 分数

分数は、分子は基数詞、分母は序数詞。そして分子が2以上の時は、分母の序数詞は複数形で読みます。

例：

3分の1 = one third

7分の2 = two sevenths

5と9分の4 = five and four ninths

また、2分の1と4分の1には特別な言い方があるので覚えて下さい。

2分の1 = one half

4分の1 = two quarter

3. 序数詞の用法

序数詞とは、「第1、第2、第3…」や「1番、2番、3番…」などを表すときに使う語です。

序数詞の基本は、基数詞に **-th** をつけます。ただいくつか例外もあるので、これも基数詞同様に覚えるしかありません。

[基礎となる序数詞]

では、1～20と100までの10区切りの数、そして1000を紹介します。

第1の	…	first
第2の	…	second
第3の	…	third
第4の	…	fourth
第5の	…	fifth
第6の	…	sixth
第7の	…	seventh
第8の	…	eighth
第9の	…	ninth
第10の	…	tenth
第11の	…	eleventh
第12の	…	twelfth
第13の	…	thirteenth
第14の	…	fourteenth
第15の	…	fifteenth
第16の	…	sixteenth
第17の	…	seventeenth
第18の	…	eighteenth

第19の … nineteenth
第20の … twentieth
第30の … thirtieth
第40の … fortieth
第50の … fiftieth
第60の … sixtieth
第70の … seventieth
第80の … eightieth
第90の … ninetieth
第100の … hundredth
第1000の … thousandth

これが基本となりますので、必ず暗記して下さい。

また、もっと大きな単位では次のようになります。

第1000000の … millionth
第10000000000の … billionth
第1000000000000000の … trillionth

[二桁以上の序数詞]

二桁以上の数字の序数詞は、基本は数詞と同じ表し方で、最後の数字だけを序数詞にすれば OK です。

例：

2 1 =twenty-one

第 2 1 の=twenty-first

8 8 =eighty-eight

第 8 8 の=eighty-eighth

1 4 3 =one hundred (and) forty-three

第 1 4 3 の=one hundred (and) forty-third

9 2 1 1 =nine thousand two hundred (and) eleven

第 9 2 1 1 の=nine thousand two hundred (and) eleventh

2 1 =twenty-one

第 2 1 の=twenty-first

このようになります。

[テストでよく出る序数詞]

テストで必ずといっていいほど出題される序数詞を紹介します。特に注意して覚えて下さい。

- fifth … ve を f に変えて th
- twelfth … ve を f に変えて th
- eighth … h だけをつければ OK
- ninth … nineth としてしまいがち

これら4つは、出題頻度が非常に高いものです。正しい形で覚えるようにして下さい。

Copyright (C) 2008 All Rights Reserved, ちょいデブ親父の英文法